

---

# 夏の夜

Machete

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夏の夜

### 【Zコード】

N1246M

### 【作者名】

Machete

### 【あらすじ】

夏の夜、一人暮らしの俺は自宅に違和感を感じた。  
一時は逃れたがそれはただ一瞬の出来事だった。

ある夏の夜の事、自宅を出るときに違和感を感じた。それは、玄関に近い誰も居ないはずの寝室で誰かの寝息を聞いたような気がしたからだ。そのときは何も考えなかつたが、その日の夜から自宅の中に他の何かが居た気がした。

違和感を気にし始めたのは1週間も経たないうちだつた。朝起きると部屋の物が自分の知らないところに移動している。天井からは誰かが歩く音。トイレに入ると扉を何度も叩かれる。まずいと思いつくの神社に申し出たところ、家には多数の靈がさ迷つていたらしい。すぐに御祓いをしてもらい一時は助かつたと思ったが・・・

1ヶ月後、自宅で友人と電話で会話しているときだつた。

「さつきから気になつてたんだけど、誰か近くに居るか？」

「居ないけど。何か聞こえるか？」

「いや、近くで誰かがボソボソと何か言つてるようにな聞こえるからさ。」

少し嫌な気がした。最近は前のように違和感を感じなかつたからだ。その日の夜の事だつた、今まで一番恐ろしい事があつたのは。

電話を終えた後、いつも通りに寝室に入ろうとしたときに、突然家の中の電気がすべて消えた。手に持つていた携帯電話の明かりを付けようとした時、

携帯を持っていた手を何かに捕まれた。そして間もなく、手足を捕まれた。身動きが取れなくなつたとたんに耳元で子供の声で何か咳いているように聞こえた。

ヤバイヤバイヤバイヤバイ

自分の中で初めて体感する感覚。捕まっていたものを振り払い、無我夢中で人の居るところを探した。すぐに思いついたのは明かりもあり、人の居る所コンビニエンスストアだつた。呼吸をととのえて改めて考え直す。今までに何が起きていたかを

「どうしましたか？」

不意に声をかけられた振り向くと、店員が不思議そうな顔で見ていた。それもそのはず長い時間ただ立っていただけだったからだ。

「すみません。考え方をしていました。」

軽くお辞儀をして店を出ようとし出入り口の扉とその周りのガラスを見た。

そこには無数の手が張り付いており、こちらをただ求めている様で地面には顔が見えないくらい人が這いつぶばつてこっちに近づこうとしている。

「イッショニ・・・ラクニナロウ！」

「ナンデ・・・ニゲルノ」

「アソボウヨ」

複数の声が重なり俺を飲み込んだ。

「アタラシクヒトガキタ」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1246m/>

---

夏の夜

2010年10月18日16時06分発行